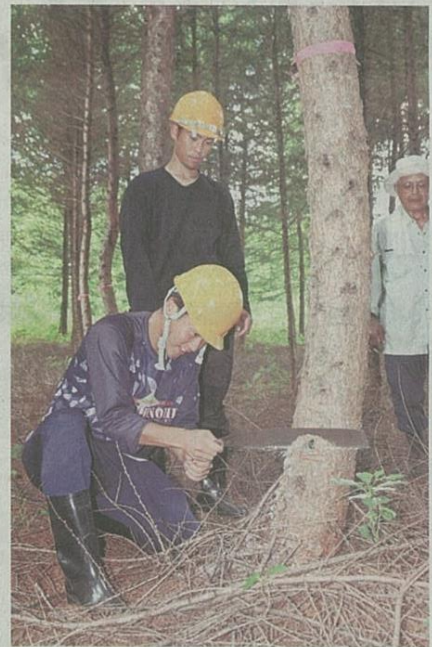


「木の駅プロジェクト」林業体験 八学大生、仕組み学ぶ

新郷



間伐材の伐倒作業を行う学生

会（小笠原敏彦委員長）が協力した。

プロジェクトは、山

くになりながらも、根気強く伐倒作業を進めた。

新郷村西越地区の山林で26日、八戸学院大の学生が林業を体験する授業が行われた。学生は作業を通じて、間伐材を地域通貨に換金する「木の駅プロジェクト」の流れを体験し、

林所有者らが間伐材を村の「木の駅」に出荷すると、量に応じて地域通貨「郷やま券」を受け取れる。間伐材は三八地方森林組合が買い取り、まきに加工して新郷温泉館の木質ポイラーで使用される。

間伐材を木の駅がある同組合新郷事務所へ出荷。量を測定し、換金した値段を計算した。

村の木材で地域経済を活性化させる仕組みを学んだ。

学生は作業区域の草刈りや枝打ちを行った後、育成不良の木を切り捨て、材木が育ちやすいようにする「保育間伐」を行った。汗だ

3年前田悠稀さんは「力作業が続いて大変だったが、お金につながる仕組みは面白い」と興味を持った様子だった。（田村純也）

地産地消や資源の循環を学ぶ目的で、地域経営学部の3、4年生13人が参加。「木の駅プロジェクト実行委員

間伐」を行った。汗だ